



アナログモデム内蔵 ブロードバンドルーター

MR-GL1200+

サンプル config マニュアル

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| サンプル config についての説明 | 3 |
| アナログ専用線 IP 接続 | 5 |
| LAN 型ダイヤルアップ IP 接続 | 20 |
| RAS サーバーIP 接続 | 27 |
| 接続できない場合 | 33 |
| アナログ専用線 IP 接続 | 33 |
| LAN 型ダイヤルアップ IP 接続（発信側） | 34 |
| LAN 型ダイヤルアップ IP 接続（着信側） | 39 |
| RAS サーバーIP 接続 | 44 |

サンプル config についての説明

作成 FW バージョン : v6.108.00(85)

※これらの config はそれぞれ記載の設定を確認するためのものになります。

そのため、読み込むと説明の設定以外は初期値となりますのでお気をつけください。

設定画面へのログイン方法を説明します。

URL 欄に LAN 側 IP アドレスを入力してください。(初期値は 192.168.0.1)



ブラウザによって多少変化しますが、サインインするための認証ウィンドウが開きます。

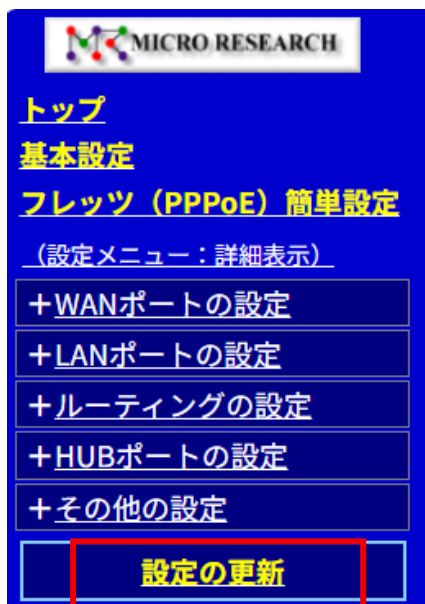
ユーザー名、パスワードを入力してください。(初期値はユーザー名 : admin パスワード : 空欄)

設定変更後の設定反映手順を説明します。

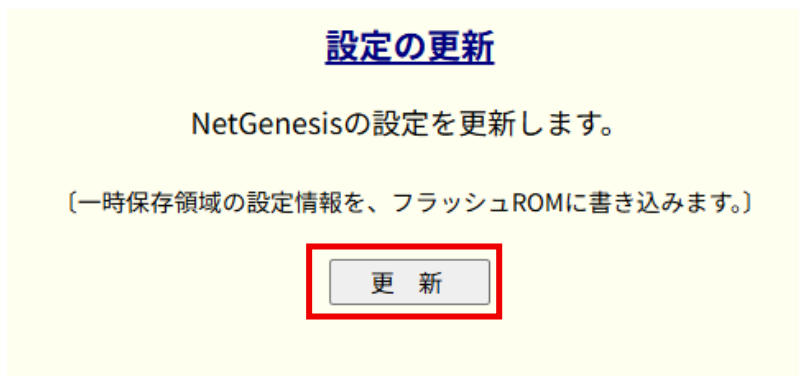
1.画面下部の「設定」ボタンを押してください。



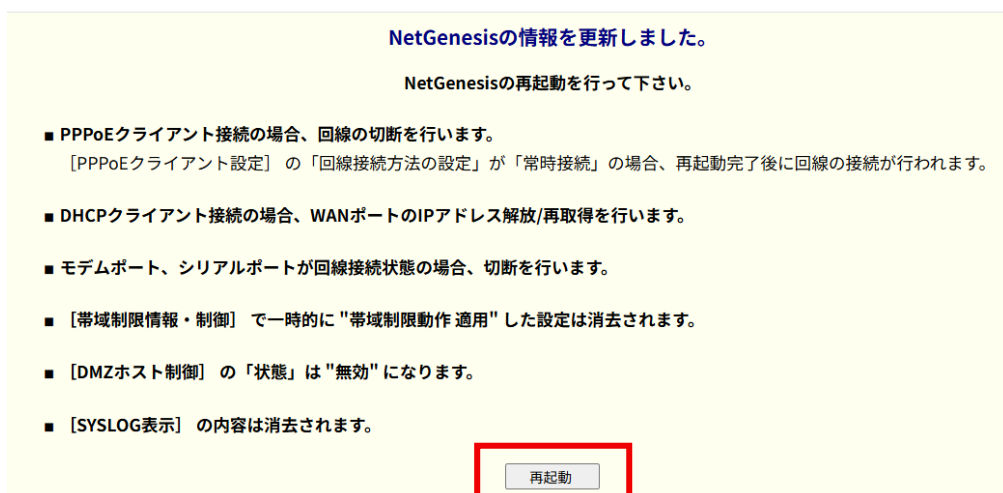
2.左メニュー内の「設定の更新」を押してください。



3.「更新」をクリックしてください。



4.「再起動」を押してください。本体が再起動されて変更した設定が反映されます。



アナログ専用線 IP 接続

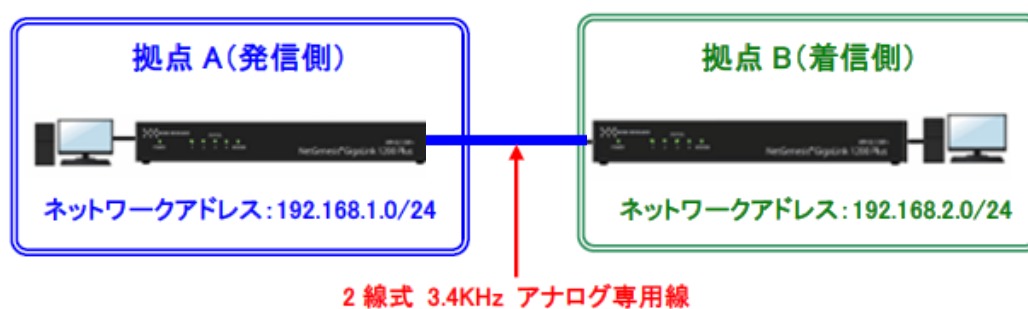
・拠点 A : Sample001.bin 拠点 B : Sample002.bin

MR-GL1200+は 2 線式 3.4KHz アナログ専用線を利用したネットワークの構築が可能です。

2 拠点間を IP アドレス変換せずに（IP アドレス無変換で）接続します。

※アナログ専用線 IP 接続のみ、モジュラーケーブルで MR-GL1200+同士を直結しての通信テストを行うことができます。

以下の環境を例に設定方法を説明します。



※アナログ専用線接続は MR-GL1200+を 2 台一組（発信側、着信側）で使用します。

※各拠点は異なるネットワークアドレスを設定してください。サブネットに分けることも可能です。

拠点 A（発信側）

LAN 側 IP アドレス : 192.168.1.1

先頭 IP アドレス/サブネット : 192.168.1.2/24 付与 IP アドレス数 : 253

ゲートウェイ : 192.168.1.1 プライマリ DNS : 192.168.1.1

拠点 B（着信側）

LAN 側 IP アドレス : 192.168.2.1

先頭 IP アドレス/サブネット : 192.168.2.2/24 付与 IP アドレス数 : 253

ゲートウェイ : 192.168.2.1 プライマリ DNS : 192.168.2.1

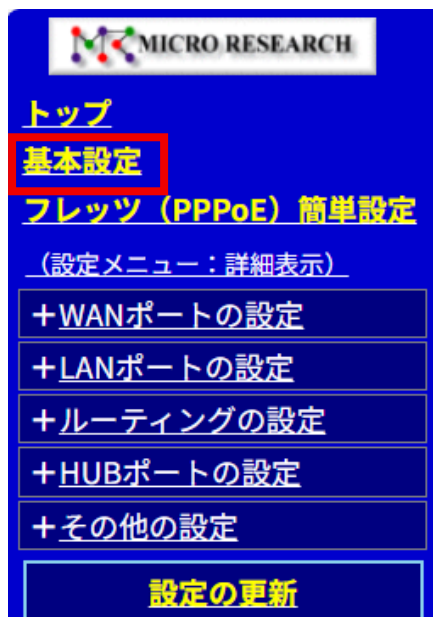
変更手順

拠点 A（発信側）の設定について説明します。

設定画面へログインしてください。

ログイン方法は「サンプル config についての説明」をご確認ください。

基本設定を押してください。



LAN ポート IP アドレスの設定内、「IP アドレス/サブネット」を
「192.168.0.1/24」 → 「192.168.1.1/24」と変更してください。

基本設定

NetGenesisのIPアドレスやMTU/MRUの設定、UPnP機能の設定、IPv6ブリッジ機能の設定など、NetGenesis本体の基本設定を行います。

LANポートIPアドレスの設定

NetGenesisのLANポートIPアドレスを設定します。
このIPアドレスがLAN内のPCのゲートウェイ（ルータアドレス）となります。
WANポートをアンナナバード（IPアドレス変換無効）に設定する方は、IPアドレス/サブネットを変更する必要があります。

IPアドレス/サブネット [サブネットについて](#)

■ 初めてLANを構築する方や、ネットワークについてあまり詳しくない方は、工場出荷値のまま変更せずにお使い下さい。
■ LANポートIPアドレスを変更する方は、必ず「LANポートの設定・DHCPサーバー設定」も変更して下さい。

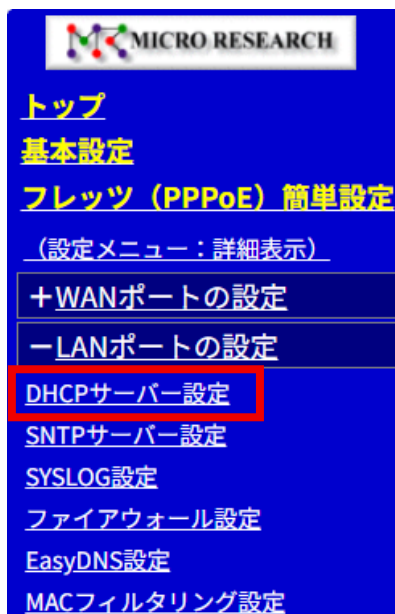
設定

元に戻す

入力後、画面下部の「設定」を押してください。

この段階で設定を反映させるための動作は行わないでください。

続いて、「LAN ポートの設定」内、「DHCP サーバー設定」を押してください。



「DHCP サーバー機能を使用する」にチェックが入っていることを確認してください。

先頭 IP アドレス/サブネット：「192.168.1.1/24」

付与 IP アドレス数：「253」

ゲートウェイ：「192.168.1.1」

プライマリ DNS：「192.168.1.1」

へ変更してください。

DHCPサーバー設定

IPアドレスなどLAN内のPCに必要なTCP/IP設定を、自動的に割り当てるための設定を行います。

NetGenesisのLANポートIPアドレスを変更された方は、必ず本画面の設定を確認して下さい。

| | | |
|-------------------------------------|---|---------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | DHCPサーバー機能を使用する | |
| 先頭IPアドレス/サブネット | <input type="text" value="192.168.1.2/24"/> | サブネットについて |
| 付与IPアドレス数 | <input type="text" value="253"/> | (最大253個) |
| ゲートウェイ | <input type="text" value="192.168.1.1"/> | |
| プライマリDNS | <input type="text" value="192.168.1.1"/> | |
| セカンダリDNS | <input type="text"/> | |
| サードDNS | <input type="text"/> | |
| フォースDNS | <input type="text"/> | |

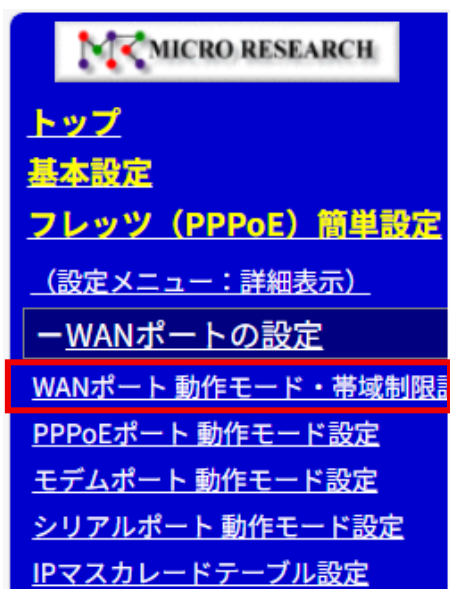
入力後、画面下部の「設定」を押してください。

「設定の更新」→「更新」→「再起動」を行って変更を反映させてください。

次に接続するための設定を説明いたします。

※アナログ専用線接続以外に、インターネットでの通信も行われる方はこの設定は不要です。

「WAN ポートの設定」内「WAN ポート動作モード・帯域制限設定」を押してください。



「WAN ポート動作モード設定」内「WAN ポート未使用（無効）」にチェックを入れてください。

WANポート 動作モード・帯域制限設定

WANポートの動作モードの設定（選択）と、[帯域制限（シェーピング）の設定](#)を行います。

| WANポート 動作モード設定 | |
|---|--------------------|
| 動作モードを選択して【詳細設定】ボタンをクリックして下さい。 | |
| DHCPクライアント（IPアドレス自動取得のプロバイダ） | |
| <input type="radio"/> DHCPクライアント IPアドレス自動取得 | [IPマスカレード変換有効] |
| PPPoEクライアント（PPPoEによるユーザー認証が必要なプロバイダ） | |
| <input type="radio"/> IPアドレス自動取得 / IPアドレス固定（1～16個） / アンナンバード（unnumbered） － PPPoEクライアントの各動作モード設定・PPPoEマルチセッション－ | |
| IPアドレス固定（IPアドレス固定のプロバイダ） | |
| <input type="radio"/> IPアドレス固定（1～16個） | [NAT/IPマスカレード変換有効] |
| <input type="radio"/> アンナンバード（unnumbered） | [IPアドレス変換無効] |
| <input type="radio"/> ローカルルータ | [IPアドレス変換無効] |
| <input checked="" type="radio"/> WANポート 未使用（無効） | |
| <input type="button" value="詳細設定"/> <input type="button" value="動作モード設定 適用"/> | |

「動作モード設定 適用」ボタンを押してください。

「WAN ポートの設定」内「モデムポート動作モード設定」を押してください。

・「モデムポートを使用する」にチェックを入れてください。

・「内蔵モデム設定」内「回線種別の設定」で「アナログ専用線」を選択してください。

モデムポート 動作モード設定

内蔵モデムの設定と、モデムポートの 動作モードの設定（選択） を行います。

☒ **モデムポートを使用する**

内蔵モデム設定

回線種別の設定

☐ アナログ：プッシュ回線（トーン）
☐ アナログ：ダイヤル回線（パルス）
☒ **アナログ専用線**

オプション設定

スピーカー音量 ☐ ミュート ☐ 音量・小 ☐ 音量・中 ☐ 音量・大
追加ATコマンド

次に、「動作モード設定」で「アナログ専用線 IP 接続」を選択し「動作モード設定 適用」を押してください。

動作モード設定

☐ ダイヤルアップ（RASクライアント）IP接続
☐ ダイヤルアップ（RASクライアント）IP接続 と RASサーバーIP接続を併用

☐ RASサーバーIP接続
☐ LAN型ダイヤルアップIP接続

RASサーバーIP接続 無通信自動切断・無切断時間の設定
LAN型ダイヤルアップIP接続

送信無通信時間 [時間:分:秒] 受信無通信時間 [時間:分:秒]
(工場出荷値：00:03:00 / 設定可能範囲：00:00:10～100:00:00 ・ 10秒間隔)

☐ 無切断時間を設定する
 から までは、無通信自動切断を無効とする。
(開始時間) (終了時間)
(設定：10秒間隔)
☐ 切断時刻に通信があった場合は、無通信自動切断により切断を行う。

☒ **アナログ専用線IP接続**

動作モード設定を保存したら「詳細設定」を押してください。

アナログ専用線 IP 接続設定画面が開きます。

「アナログ専用線（2 線式）接続モードの設定」内「発信側」を選択してください。

専用線接続用 AT コマンド：「ATD」

拠点 A（発信側）のため、発信側用の AT コマンドを入力してください。

アナログ専用線IP接続設定

— モデムポート —

[IPアドレス変換無効]

NetGenesisのLANポートIPアドレスは、「基本設定」で設定して下さい。

アナログ専用線（2線式）接続モードの設定

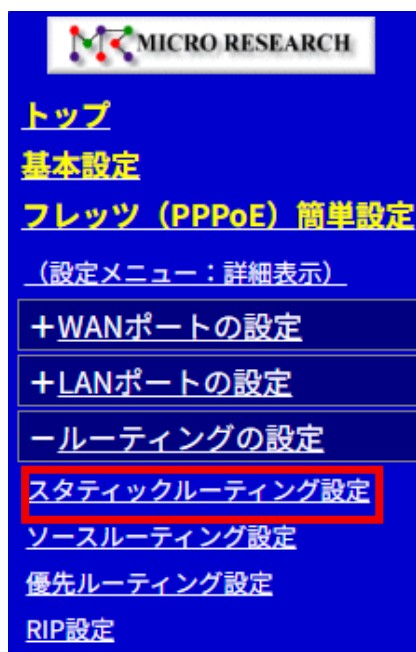
☒ 発信側 ☐ 着信側

専用線接続用ATコマンド

「発信側」を選択した場合は ATD を、
「着信側」を選択した場合は ATA を入力して下さい。

入力後、「設定」を押してください。

ルーティング設定を行うので、メニューの「ルーティングの設定」内「スタティックルーティング設定」を押してください。



アナログ専用線の場合は「～をデフォルトゲートウェイに設定する」のチェックをすべて外してください。
「ルーティングテーブル登録リスト」内「切り取り編集」を押してください。

モデム ポート

☐ モデム ポートをデフォルトゲートウェイに設定する

メトリック 1 ▼

ルーティングテーブル 登録リスト

(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

「切り取り編集」は元となったエントリを削除してエントリの編集を行います。

| IPアドレス/サブネット | メトリック | |
|--------------|-------|--------|
| | | 切り取り編集 |

モデム ポート ルーティングテーブル リスト追加・編集で IP アドレス/サブネットに「192.168.2.0/24」を入力して、「追加」を押してください。

モデム ポート

ルーティングテーブル リスト追加・編集

IPアドレス/サブネット 192.168.2.0/24 メトリック 1 ▼

[サブネットについて](#)

追加 元に戻す

ルーティングテーブル登録リストに下記のように追加されます。

モデム ポート

☐ モデム ポートをデフォルトゲートウェイに設定する

メトリック 1 ▼

ルーティングテーブル 登録リスト

(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

「切り取り編集」は元となったエントリを削除してエントリの編集を行います。

| IPアドレス/サブネット | メトリック | |
|----------------|-------|--------|
| 192.168.2.0/24 | 1 | 切り取り編集 |
| | | 切り取り編集 |

設定後、画面下「設定」を押して、「設定の更新」→「更新」→「再起動」を行って変更を反映させてください。

設定 元に戻す

これで拠点 A（発信側）の設定は完了です。

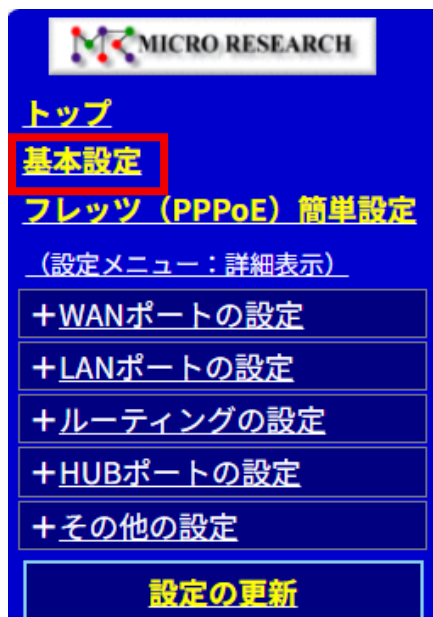
変更手順

拠点 B（着信側）の設定について説明します。

設定画面へログインしてください。

ログイン方法は「サンプル config についての説明」をご確認ください。

基本設定を押してください。



LAN ポート IP アドレスの設定内、「IP アドレス/サブネット」を
「192.168.0.1/24」 → 「192.168.2.1/24」と変更してください。

基本設定

NetGenesisのIPアドレスやMTU/MRUの設定、UPnP機能の設定、IPv6ブリッジ機能の設定など、NetGenesis本体の基本設定を行います。

LANポートIPアドレスの設定

NetGenesisのLANポートIPアドレスを設定します。
このIPアドレスがLAN内のPCのゲートウェイ（ルータアドレス）となります。
WANポートをアンナナード（IPアドレス変換無効）に設定する方は、IPアドレス/サブネットを変更する必要があります。

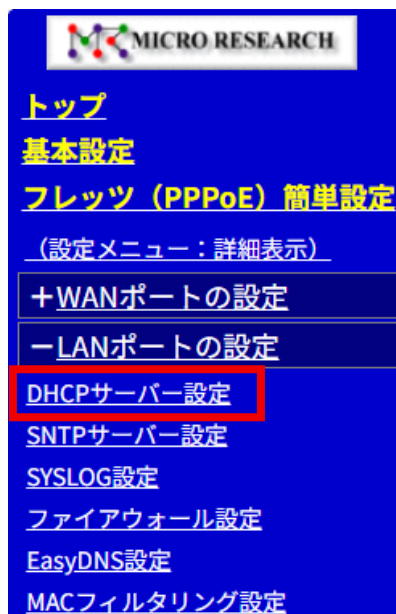
IPアドレス/サブネット [サブネットについて](#)

■ 初めてLANを構築する方や、ネットワークについてあまり詳しくない方は、工場出荷値のまま変更せずにお使い下さい。
■ LANポートIPアドレスを変更する方は、必ず「LANポートの設定・DHCPサーバー設定」も変更して下さい。

入力後、画面下部の「設定」を押してください。

この段階で設定を反映させるための動作は行わないでください。

続いて、「LAN ポートの設定」内、「DHCP サーバー設定」を押してください。



「DHCP サーバー機能を使用する」にチェックが入っていることを確認してください。

先頭 IP アドレス/サブネット : 「192.168.2.2/24」

付与 IP アドレス数 : 「253」

ゲートウェイ : 「192.168.2.1」

プライマリ DNS : 「192.168.2.1」

へ変更してください。

DHCPサーバー設定

IPアドレスなどLAN内のPCに必要なTCP/IP設定を、自動的に割り当てるための設定を行います。

NetGenesisのLANポートIPアドレスを変更された方は、必ず本画面の設定を確認して下さい。

| | | |
|-------------------------------------|---|---------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | DHCPサーバー機能を使用する | |
| 先頭IPアドレス/サブネット | <input type="text" value="192.168.2.2/24"/> | サブネットについて |
| 付与IPアドレス数 | <input type="text" value="253"/> | (最大253個) |
| ゲートウェイ | <input type="text" value="192.168.2.1"/> | |
| プライマリDNS | <input type="text" value="192.168.2.1"/> | |
| セカンダリDNS | <input type="text"/> | |
| サードDNS | <input type="text"/> | |
| フォースDNS | <input type="text"/> | |

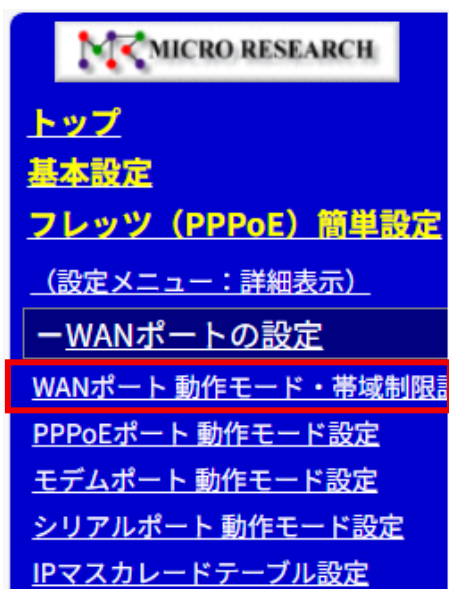
入力後、画面下部の「設定」を押してください。

「設定の更新」 → 「更新」 → 「再起動」を行って変更を反映させてください。

次に接続するための設定を説明いたします。

※アナログ専用線接続以外に、インターネットでの通信も行われる方はこの設定は不要です。

「WAN ポートの設定」内「WAN ポート動作モード・帯域制限設定」を押してください。



「WAN ポート動作モード設定」内「WAN ポート未使用（無効）」にチェックを入れてください。

WANポート 動作モード・帯域制限設定

WANポートの動作モードの設定（選択）と、[帯域制限（シェーピング）の設定](#)を行います。

| WANポート 動作モード設定 | |
|---|--------------------|
| 動作モードを選択して【詳細設定】ボタンをクリックして下さい。 | |
| DHCPクライアント（IPアドレス自動取得のプロバイダ） | |
| <input type="radio"/> DHCPクライアント IPアドレス自動取得 | [IPマスカレード変換有効] |
| PPPoEクライアント（PPPoEによるユーザー認証が必要なプロバイダ） | |
| <input type="radio"/> IPアドレス自動取得 / IPアドレス固定（1～16個） / アンナンバード（unnumbered） － PPPoEクライアントの各動作モード設定・PPPoEマルチセッション－ | |
| IPアドレス固定（IPアドレス固定のプロバイダ） | |
| <input type="radio"/> IPアドレス固定（1～16個） | [NAT/IPマスカレード変換有効] |
| <input type="radio"/> アンナンバード（unnumbered） | [IPアドレス変換無効] |
| <input type="radio"/> ローカルルータ | [IPアドレス変換無効] |
| <input checked="" type="radio"/> WANポート 未使用（無効） | |
| <input type="button" value="詳細設定"/> <input type="button" value="動作モード設定 適用"/> | |

「動作モード設定 適用」ボタンを押してください。

「WAN ポートの設定」内「モデムポート動作モード設定」を押してください。

・「モデムポートを使用する」にチェックを入れてください。

・「内蔵モデム設定」内「回線種別の設定」で「アナログ専用線」を選択してください。

モデムポート 動作モード設定

内蔵モデムの設定と、モデムポートの 動作モードの設定（選択） を行います。

☒ **モデムポートを使用する**

内蔵モデム設定

回線種別の設定

☐ アナログ：プッシュ回線（トーン）
☐ アナログ：ダイヤル回線（パルス）
☒ **アナログ専用線**

オプション設定

スピーカー音量 ☐ ミュート ☐ 音量・小 ☐ 音量・中 ☐ 音量・大
追加ATコマンド

内蔵モデム設定 適用

次に、「動作モード設定」で「アナログ専用線 IP 接続」を選択し「動作モード設定 適用」を押してください。

動作モード設定

☐ ダイヤルアップ（RASクライアント）IP接続
☐ ダイヤルアップ（RASクライアント）IP接続 と RASサーバーIP接続を併用

☐ RASサーバーIP接続
☐ LAN型ダイヤルアップIP接続

RASサーバーIP接続 無通信自動切断・無切断時間の設定
LAN型ダイヤルアップIP接続

送信無通信時間 受信無通信時間
(時間:分:秒) (時間:分:秒)
(工場出荷値：00:03:00 / 設定可能範囲：00:00:10～100:00:00 ・ 10秒間隔)

☐ 無切断時間を設定する
00:00:00 から 01:00:00 までは、無通信自動切断を無効とする。
(開始時間) (終了時間)
(設定：10秒間隔)
☐ 切断時刻に通信があった場合は、無通信自動切断により切断を行う。

☒ **アナログ専用線IP接続**

動作モード設定 適用 **詳細設定**

動作モード設定を保存後、「詳細設定」を押してください。アナログ専用線 IP 接続設定画面が開きます。

「アナログ専用線（2 線式）接続モードの設定」内「着信側」を選択してください。

専用線接続用 AT コマンド：「ATA」

拠点 A（着信側）のため、着信側用の AT コマンドを入力してください。

アナログ専用線IP接続設定

— モデムポート —

[IPアドレス変換無効]

NetGenesisのLANポートIPアドレスは、「基本設定」で設定して下さい。

アナログ専用線（2線式）接続モードの設定

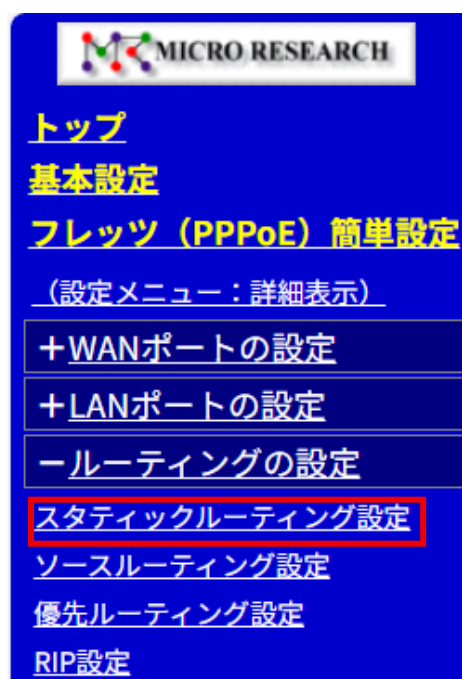
☐ 発信側 ☒ 着信側

専用線接続用ATコマンド

「発信側」を選択した場合は **ATD** を、
「着信側」を選択した場合は **ATA** を入力して下さい。

入力後、「設定」を押してください。

ルーティング設定を行うので、メニューの「ルーティングの設定」内「スタティックルーティング設定」を押してください。



※アナログ専用線の場合のみ「～をデフォルトゲートウェイに設定する」のチェックをすべて外してください。

「ルーティングテーブル登録リスト」内「切り取り編集」を押してください。

モデムポート

☐ モデムポートをデフォルトゲートウェイに設定する

メトリック 1 ▼

ルーティングテーブル 登録リスト

(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

「切り取り編集」は元となったエントリを削除してエントリの編集を行います。

| IPアドレス/サブネット | メトリック | |
|--------------|-------|--------|
| | | 切り取り編集 |

モデムポート ルーティングテーブル リスト追加・編集で IP アドレス/サブネットに「192.168.1.0/24」を入力して、「追加」を押してください。

モデムポート

ルーティングテーブル リスト追加・編集

IPアドレス/サブネット 192.168.1.0/24 メトリック 1 ▼

[サブネットについて](#)

追加 元に戻す

ルーティングテーブル登録リストに下記のように追加されます。

モデムポート

☐ モデムポートをデフォルトゲートウェイに設定する

メトリック 1 ▼

ルーティングテーブル 登録リスト

(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

「切り取り編集」は元となったエントリを削除してエントリの編集を行います。

| IPアドレス/サブネット | メトリック | |
|----------------|-------|--------|
| 192.168.1.0/24 | 1 | 切り取り編集 |
| | | 切り取り編集 |

設定後、画面下「設定」を押してから、「設定の更新」→「更新」→「再起動」を行って変更を反映させてください。

これで拠点 B（着信側）の設定は完了です。

次に拠点 A（発信側）と拠点 B（着信側）の MR-GL1200+ の LINE ポートをモジュラーケーブルで接続してください。

■背面(各コネクタ、RESET スイッチ)

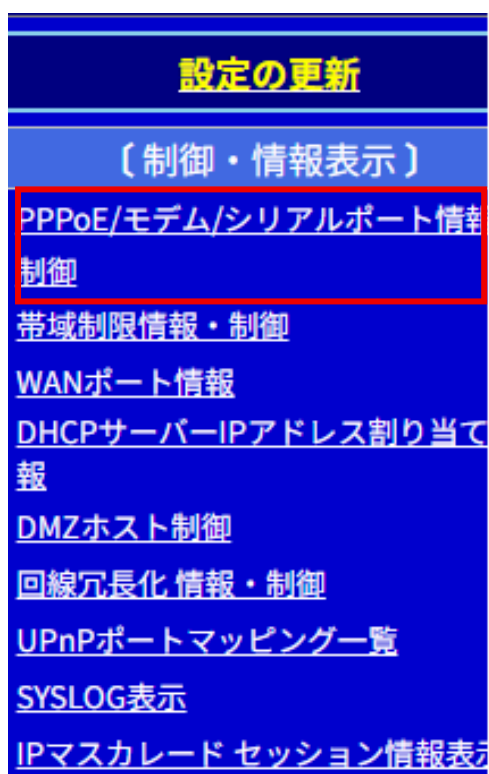


これで接続する準備が整いました。

MR-GL1200+の電源が入った状態であれば、モデムの動作音が鳴り接続が完了します。

接続できているかを設定画面で確認するには、左メニューの制御・情報表示内にある

「PPPoE/モデム/シリアルポート情報・制御」を押してください。



モデムポート（S01）が以下のような表示になります。

| モデムポート（S01） | |
|----------------------------|---------------|
| ニックネーム (接続名称 または 動作モード) | : 専用線IP接続 |
| 接続モード（回線接続方法） | : 常時接続 |
| 状態 | : 接続状態 |
| 接続時間 | : 0:01:49 |
| 取得した自IPアドレス | : 0.0.0.0 |
| 取得した相手IPアドレス | : 0.0.0.0 |
| 取得したプライマリDNS | : |
| 取得したセカンダリDNS | : |

接続モード：常時接続

状態：接続状態

接続時間：接続した時間

取得した自 IP アドレス：0.0.0.0

取得した相手 IP アドレス：0.0.0.0

ランプ状態



MODEM：点灯状態でオフフック

この状態で拠点 A → 拠点 B、拠点 B → 拠点 A へ PING が通れば接続確認も完了です。

例：拠点 A に接続した PC（192.168.1.10/24）から拠点 B の LAN ポート（192.168.2.1/24）へ PING を送信する。

PING が通らない場合に確認すべきこと。

- ・前面ランプの MODEM ランプは点灯しているか。
- ・設定画面の「PPPoE/モデム/シリアル・ポート情報・制御」でモデムポートは接続状態になっているか。
- ・上記 2 点が問題ない場合、スタティックルーティング設定でモデムポートに対向側のルーティング設定がされているか。（P10～、P16～）

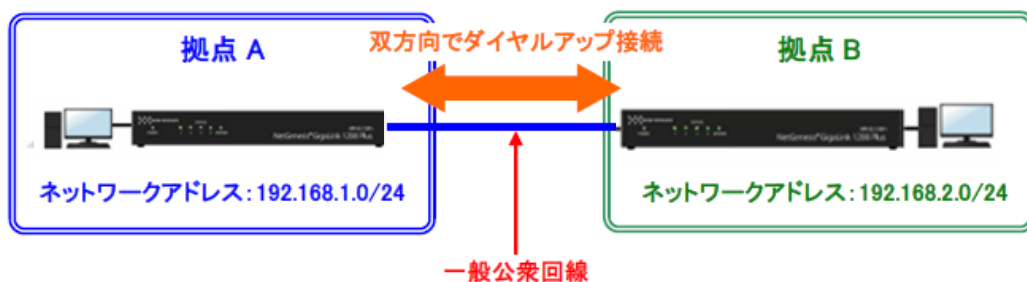
LAN 型ダイヤルアップ IP 接続

・拠点 A : Sample003.bin 拠点 B : Sample004.bin

NetGenesis MR-GL1200+は、一般公衆回線を使用して、2 つの LAN（拠点）間で IP アドレス無変換の双方向ダイヤルアップ接続を行うことが可能です。

※LAN 型ダイヤルアップ IP 接続のテストは MR-GL1200+同士の直結では行えません。

エミュレーターを使用するか、アナログ回線を 2 回線用意する必要があります。



※ご利用回線が PBX(内線交換機回線)の場合、呼出信号(RING 信号)を正しく検出出来ず、着信できないことがあります。呼出信号の検出範囲の変更方法は当社サポートへお問い合わせください。

※各拠点は異なるネットワークアドレスを設定してください。サブネットに分けることも可能です。

拠点 A

LAN 側 IP アドレス : 192.168.1.1

先頭 IP アドレス/サブネット : 192.168.1.2/24 付与 IP アドレス数 : 253

ゲートウェイ : 192.168.1.1 プライマリ DNS : 192.168.1.1

拠点 B

LAN 側 IP アドレス : 192.168.2.1

先頭 IP アドレス/サブネット : 192.168.2.2/24 付与 IP アドレス数 : 253

ゲートウェイ : 192.168.2.1 プライマリ DNS : 192.168.2.1

LAN 型ダイヤルアップ接続認証方法：着信側のみ認証

・拠点 A の設定

発信側の設定

認証方法の設定：ユーザー名：testA パスワード：testA

アクセスポイント（電話番号の設定）：0000000000（実際には接続先の電話番号）

回線接続方法の設定：手動接続（自動接続の場合、予期しない接続が発生する可能性があるため）

着信側の設定

認証情報の設定：ユーザー名：testB パスワード：testB

着信リング回数の設定：2（初期値）

・拠点 B の設定

発信側の設定

認証方法の設定：ユーザー名：testB パスワード：testB

アクセスポイント（電話番号の設定）：0000000000（実際には接続先の電話番号）

回線接続方法の設定：手動接続（自動接続の場合、予期しない接続が発生する可能性があるため）

着信側の設定

認証情報の設定：ユーザー名：testA パスワード：testA

着信リング回数の設定：2（初期値）

※拠点 A の発信側と拠点 B の着信側、拠点 B の発信側と拠点 A の着信側の認証情報が一致する必要があります。



WAN ポート動作モード・帯域制限設定、LAN ポート IP アドレス変更、DHCP サーバー設定、スタティックルーティング設定はアナログ専用線 IP 接続内を参照してください。

モデムポート動作モード設定

拠点 A・拠点 B 共通設定

- ・「WAN ポートの設定」内「モデムポート動作モード設定」を押してください。
- ・「モデムポートを使用する」にチェックを入れてください。
- ・「内蔵モデム設定」で使用する回線に合わせて「回線種別」を選択してください。
(例としてプッシュ回線（トーン）を選択)

モデムポート 動作モード設定

内蔵モデムの設定と、モデムポートの 動作モードの設定（選択） を行います。

☒ モデムポートを使用する

| 内蔵モデム設定 | |
|----------------------------------|--|
| 回線種別の設定 | |
| <input checked="" type="radio"/> | アナログ：プッシュ回線（トーン） |
| <input type="radio"/> | アナログ：ダイヤル回線（パルス） |
| <input type="radio"/> | アナログ専用線 |
| オプション設定 | |
| スピーカー音量 | <input checked="" type="radio"/> ミュート <input type="radio"/> 音量・小 <input type="radio"/> 音量・中 <input type="radio"/> 音量・大 |
| 追加ATコマンド | <input type="text"/> |
| <div>内蔵モデム設定 適用 元に戻す</div> | |

「動作モード設定」で「LAN 型ダイヤルアップ IP 接続」を選択してください。

「詳細設定」を押して、LAN 型ダイヤルアップ接続の認証方法を設定してください。

動作モード設定

☐ ダイヤルアップ (RASクライアント) IP接続
☐ ダイヤルアップ (RASクライアント) IP接続 と RASサーバーIP接続を併用

☐ RASサーバーIP接続
☒ LAN型ダイヤルアップIP接続

RASサーバーIP接続 無通信自動切断・無切断時間の設定
LAN型ダイヤルアップIP接続

送信無通信時間 [時間:分:秒] 100:00:00 受信無通信時間 [時間:分:秒] 100:00:00
(工場出荷値: 00:03:00 / 設定可能範囲: 00:00:10~100:00:00 ・ 10秒間隔)

☐ 無切断時間を設定する
00:00:00 から 01:00:00 までは、無通信自動切断を無効とする。
[開始時間] [終了時間]
(設定: 10秒間隔)

☐ 切断時刻に通信があった場合は、無通信自動切断により切断を行う。

☐ アナログ専用線IP接続

動作モード設定 適用 **詳細設定**

元に戻す

「送信無通信時間」「受信無通信時間」:

設定した時間内に通信がなかった場合、自動的に回線を切断します。

(工場出荷値では、3 分間通信 (送受信) が行われなかった場合、回線を自動切断します)

※無通信自動切断機能は無効にすることはできません。

※使用方法によっては意図しない通信により無通信自動切断が行われず、過剰な通信料金が発生する可能性がありますので設定値にはご注意ください。

※ICMP プロトコル (PING コマンド) は無通信自動切断機能の監視対象外です。

※対置側 MR-GL1200+にも無通信自動切断機能がありますのでご注意ください。

「無切断時間を設定する」:

特定の時間帯に無通信自動切断機能は無効にする場合、チェックを入れてください。

無切断時間を無効にする時間帯を入力してください。

※無切断時間を設定する場合、MR-GL1200+の時刻設定が必要になります。

LAN 型ダイヤルアップ IP 接続設定画面にでは以下のように設定してください。

拠点 A 側

The diagram shows two configuration screens side-by-side, labeled 拠点A and 拠点B. Red boxes highlight the '認証情報の設定' (Authentication Information Settings) section in both. In 拠点A, the user name is 'testA' and the password is 'testA'. In 拠点B, the user name is 'testB' and the password is 'testB'. Red arrows cross between the highlighted sections, indicating that the settings must be consistent between the two sites.

認証方法の設定：着信側のみの認証

発信側の設定

認証情報の設定

ユーザー名：testA

パスワード：testA

アクセスポイント：000000000 ※1

回線接続方法の設定：手動設定(初期値)

着信側の設定

認証情報の設定

ユーザー名：testB

パスワード：testB

着信リング回数の設定：2(初期値)

※1：こちらはあくまでダミーの電話番号です。実際に発信する接続先の電話番号を設定してください。

図のように A の発信者側の認証情報と B の認証情報、B の発信者側の認証情報と

A の着信側認証情報が一致する必要があります。

認証方法の設定：着信側のみの認証

発信側の設定

認証情報の設定

ユーザー名：testB

パスワード：testB

アクセスポイント：111111111 ※1

回線接続方法の設定：手動設定(初期値)

着信側の設定

認証情報の設定

ユーザー名：testA

パスワード：testA

着信リング回数の設定：2(初期値)

上記情報を拠点 A・拠点 B に合わせて入力後、「設定」を押してください。

次にスタティックルーティング設定を行います。こちらはアナログ専用線 IP 接続と同じ設定になるため簡略化して説明いたします。

- 1.「ルーティング設定」、「スタティックルーティング設定」を開きます。
- 2.スタティックルーティング設定画面を開いたらすべての項目の「～をデフォルトゲートウェイに設定する」を外してください。
- 3.モデムポート内「切り取り編集」を押してください。
- 4.「モデムポート ルーティングテーブル リスト追加・編集」で IP アドレス/サブネットを入力して「追加」を押してください。
拠点 A : 192.168.2.0/24
拠点 B : 192.168.1.0/24
- 5.画面下「設定」を押してください。

設定を行うと下記の画像のようになります。（こちらは拠点 A の場合）

モデムポート

☐ モデムポートをデフォルトゲートウェイに設定する

メトリック 1 ▼

ルーティングテーブル 登録リスト

(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

「切り取り編集」は元となったエントリを削除してエントリの編集を行います。

| IPアドレス/サブネット | メトリック | |
|----------------|-------|---------------------|
| 192.168.2.0/24 | 1 | 切り取り編集 削除 ▲ ▼ 先頭 最後 |
| | | 切り取り編集 |

これで設定は完了です。

設定を反映させるために「設定の更新」→「更新」→「再起動」を行って変更を反映させてください。

設定完了後、接続方法などについて説明します。

1. 設定メニューの「PPPoE/モデム/シリアルポート情報・制御」を押してください。

| モデムポート (S01) | | 接 続 |
|----------------------------|-------------------|-----|
| ニックネーム (接続名称 または 動作モード) | ： LAN型ダイヤルアップIP接続 | |
| 接続モード (回線接続方法) | ： 手動接続 / 着信接続 | |
| 状態 | ： 切断状態 | |
| 接続時間 | ： | |
| 取得した自IPアドレス | ： | |
| 取得した相手IPアドレス | ： | |
| 取得したプライマリDNS | ： | |
| 取得したセカンダリDNS | ： | |

手動接続設定にしたので、「接続」を押すまで LAN 型ダイヤルアップ接続は開始されません。

ニックネーム：「接続名称」または「動作モード」が表示されます。

接続モード：設定した回線接続方法が表示されます。

「接続」を押して正常に接続できた時点で下記表示になります。

| モデムポート (S01) | | 切 断 |
|----------------------------|-------------------|-----|
| ニックネーム (接続名称 または 動作モード) | ： LAN型ダイヤルアップIP接続 | |
| 接続モード (回線接続方法) | ： 手動接続 / 着信接続 | |
| 状態 | ： 接続状態 | |
| 接続時間 | ： 0:01:44 | |
| 取得した自IPアドレス | ： 0.0.0.0 | |
| 取得した相手IPアドレス | ： 0.0.0.0 | |
| 取得したプライマリDNS | ： | |
| 取得したセカンダリDNS | ： | |

「接続」が「切断」に変わる。

状態：切断状態・待機中 → 接続状態

接続時間：どのくらい接続しているか時間が表示される。

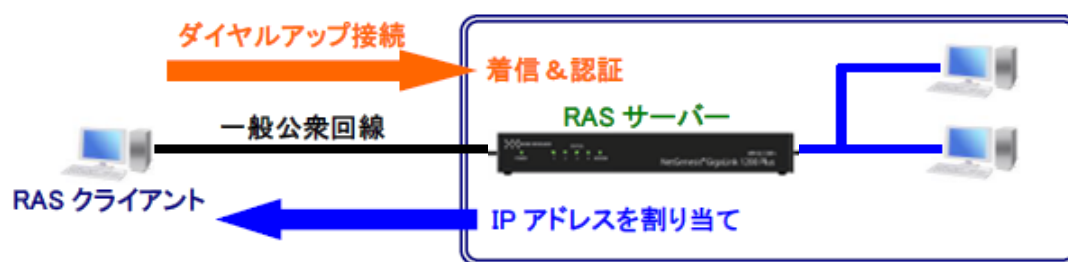
これで LAN 型ダイヤルアップ接続の説明は終了です。

RAS サーバーIP 接続

・RAS サーバー : Sample005.bin

RAS サーバーIP 設定・Netgenesis の DHCP サーバーを使用する。

NetGenesis MR-GL1200+は、リモートアクセスサーバー(RAS)として遠隔地からのリモートアクセス接続に対応することが可能です。



※ご利用回線が PBX(内線交換機回線)の場合、呼出信号(RING 信号)を正しく検出することが出来ず、着信できないことがあります。 呼出信号の変更については当社サポートへお問い合わせください。

※RAS クライアントへ割り当てることができるのは IP アドレスのみとなります。

※MR-GL1200+が対応する認証方式は「CHAP」「PAP」です。

RAS サーバー

LAN 側 IP アドレス : 192.168.1.1

先頭 IP アドレス/サブネット : 192.168.1.2/24 付与 IP アドレス数 : 253

ゲートウェイ : 192.168.1.1 プライマリ DNS : 192.168.1.1

WAN ポート動作モード・帯域制限設定、LAN ポート IP アドレス変更、DHCP サーバー設定、スタティックルーティング設定はアナログ専用線 IP 接続内を参照してください。

- ・「WAN ポートの設定」内「モデムポート動作モード設定」を押してください。
- ・「モデムポートを使用する」にチェックを入れてください。
- ・「内蔵モデム設定」で使用する回線に合わせて「回線種別」を選択してください。
(例としてプッシュ回線（トーン）を選択)

モデムポート 動作モード設定

内蔵モデムの設定と、モデムポートの 動作モードの設定（選択） を行います。

☒ モデムポートを使用する

内蔵モデム設定

回線種別の設定

☒ アナログ：プッシュ回線（トーン）
☐ アナログ：ダイヤル回線（パルス）
☐ アナログ専用線

オプション設定

スピーカー音量

☒ ミュート ☐ 音量・小 ☐ 音量・中 ☐ 音量・大

追加ATコマンド

内蔵モデム設定 適用

元に戻す

※オプション設定は必要に応じて設定してください。

「スピーカー音量」：モデム動作時の音量。

「追加 AT コマンド」：各種 AT コマンドでモデムの動作を制御することができます。

※AT コマンドについてはマニュアル P347「付録・AT コマンドとリザルトコード一覧」をご確認ください。

「動作モード設定」で「RAS サーバーIP アドレス接続」を設定してください。

動作モード設定

ダイヤルアップ（RASクライアント）IP接続

ダイヤルアップ（RASクライアント）IP接続 と RASサーバーIP接続を併用

RASサーバーIP接続

LAN型ダイヤルアップIP接続

RASサーバーIP接続

無通信自動切断・無切断時間の設定

LAN型ダイヤルアップIP接続

送信無通信時間

[時間:分:秒]

100:00:00

受信無通信時間

[時間:分:秒]

100:00:00

(工場出荷値：00:03:00 / 設定可能範囲：00:00:10～100:00:00 ・ 10秒間隔)

無切断時間を設定する

00:00:00

から

01:00:00

までは、無通信自動切断を無効とする。

[開始時間]

[終了時間]

(設定：10秒間隔)

切断時刻に通信があった場合は、無通信自動切断により切断を行う。

アナログ専用線IP接続

動作モード設定 適用

詳細設定

元に戻す

動作モード設定を選択後、「詳細設定」を押してください。

29

「RAS サーバーIP アドレス接続設定」画面が開きます。

RASサーバーIP接続設定

— モデムポート —

— 着信接続 —

【IPアドレス変換無効】

RASサーバーIPアドレスの設定

☒ NetGenesisのDHCPサーバーを使用する

☐ IPアドレスを指定する
RASサーバーIPアドレス

☒ LANポートIPアドレスを使用
☐ IPアドレスを指定

RASクライアントIPアドレス

着信リング回数の設定
着信リング回数

RASクライアント ユーザー登録リスト
(512ユーザーまで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)
「切り取り編集」は元となったエントリを削除してエントリの編集を行います。

| ユーザー名 | 着信ポート | コールバック設定 | コールバック先電話番号 | |
|-------|-------|----------|-------------|--------|
| | | | | 切り取り編集 |

RAS サーバーIP アドレスの設定を行ってください。

RASサーバーIPアドレスの設定

☒ NetGenesisのDHCPサーバーを使用する

☐ IPアドレスを指定する
RASサーバーIPアドレス

☒ LANポートIPアドレスを使用
☐ IPアドレスを指定

RASクライアントIPアドレス

「NetGenesis の DHCP サーバーを使用する」を選択してください。

NetGenesis の DHCP サーバー機能を使用して、RAS クライアントへ IP アドレスを割り当てます。

「RAS クライアント ユーザー登録リスト」欄の「切り取り編集」を押してください。

| RASクライアント ユーザー登録 (追加・編集) | |
|--|--|
| ユーザー名 | <input type="text" value="test"/> |
| パスワード | <input type="password" value="...."/> |
| パスワード再入力 | <input type="password" value="...."/> |
| 着信ポート | <input type="radio"/> モデムポート <input type="radio"/> シリアルポート <input checked="" type="radio"/> 両ポート |
| <input type="checkbox"/> コールバックを許可する <input checked="" type="radio"/> RASクライアントから電話番号を指定 <input type="radio"/> 事前に電話番号を登録 電話番号 <input type="text"/> | |
| <div> <input checked="" type="button" value="追加"/> <input type="button" value="元に戻す"/> </div> | |

ユーザー名 : test

パスワード・パスワード再入力 : test

着信ポート : 両ポート(初期値)

入力後、「追加」を押してください。

「RAS クライアント ユーザー登録リスト」に以下のように追加されます。

「設定」を押してください。

| RASクライアント ユーザー登録リスト | | | | |
|---|-------|----------|-------------|---|
| (512ユーザーまで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。) | | | | |
| 「切り取り編集」は元となったエントリを削除して エントリの編集を行います。 | | | | |
| ユーザー名 | 着信ポート | コールバック設定 | コールバック先電話番号 | |
| test | 両ポート | なし | | <input type="button" value="切り取り編集"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="▲"/> <input type="button" value="▼"/> <input type="button" value="先頭"/> <input type="button" value="最後"/> |
| | | | | <input type="button" value="切り取り編集"/> |
| <div> <input checked="" type="button" value="設定"/> <input type="button" value="元に戻す"/> </div> | | | | |

以上でモデムポート動作モード設定は完了です。

「設定の更新」→「更新」→「再起動」を行って変更を反映させてください。

設定完了後、接続確認などについて説明します。

まず、クライアント側から RAS サーバーへ接続処理を行ってください。

接続処理を行ったら、RAS サーバー側で設定メニューの「PPPoE/モデム/シリアルポート情報・制御」を押してください。

| モデムポート (S01) | | 切 断 |
|----------------------------|---------------|-----|
| ニックネーム (接続名称 または 動作モード) | ： RASサーバーIP接続 | |
| 接続モード (回線接続方法) | ： 着信接続 | |
| 状態 | ： 接続状態 | |
| 接続時間 | ： 0:00:21 | |
| 取得した自IPアドレス | ： 192.168.1.1 | |
| 取得した相手IPアドレス | ： 192.168.1.3 | |
| 取得したプライマリDNS | ： | |
| 取得したセカンダリDNS | ： | |

このように表示され、接続時間や割り振った IP アドレスを確認することができます。

以上で「アナログ専用線接続」・「LAN 型ダイヤルアップ接続」・「RAS サーバーIP 接続」の設定方法についての説明は完了です。

各接続機能の詳細については、オンラインマニュアルをご確認ください。

アナログ専用線 IP 接続設定：P87 8-6.専用線 IP 接続

LAN 型ダイヤルアップ接続設定：P81 8-5.LAN 型ダイヤルアップ IP 接続

RAS サーバーIP 接続設定：P74 8-4.RAS サーバーIP 接続

次に接続や通信ができない場合の確認事項について説明いたします。

接続できない場合

アナログ専用線 IP 接続

- ・「モデムポートを使用する」のチェックが入っているか確認してください。

モデムポートの設定は「WAN ポートの設定」内「モデムポート 動作モード設定」で行うことができます。

- ・「専用線接続用 AT コマンド」が正しく設定されているか確認してください。

発信側の場合は「ATD」、着信側の場合は「ATA」が入力されているか確認してください。

また、「ATD」「ATA」以外のコマンドが入力されている場合、接続できませんのでご注意ください

- ・ご利用のアナログ回線の回線品質が悪い可能性があります。

追加 AT コマンドを設定して、回線接続速度を下げても接続できるかお試しください。

[回線接続速度を 9600bps に下げる例]

設定メニューの「WAN ポートの設定」内「モデムポート動作設定」を押してください。

「内蔵モデム設定」の「追加 AT コマンド」欄に以下の AT コマンドを入力してください。

AT+MS=34.1,,9600,,9600

(変調方式を V34 に固定し、送信、受信の最高速度を 9600bps に制限)

「内蔵モデム設定 適用」ボタンを押してください。

設定更新・再起動を行ってください。

LAN 型ダイヤルアップ IP 接続（発信側）

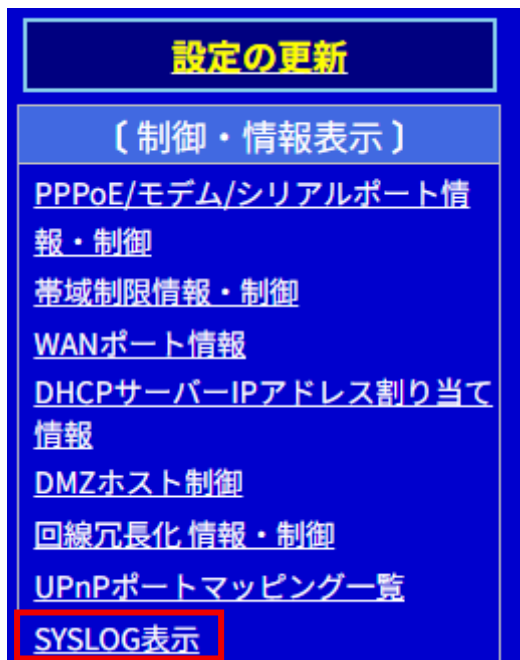
まず「モデムポート情報制御」から回線の手動接続を行い、状態が「接続状態」になるか確認してください。

- ・接続状態になっている場合

スタティックルーティング設定が正しく行われているか確認してください。

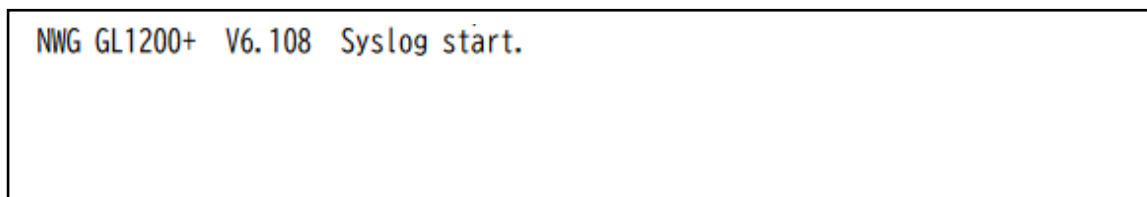
- ・接続状態にならない場合

設定メニューから「SYSLOG 表示」をクリックして、SYSLOG 表示の内容を確認してください。



SYSLOG 表示例 1

モデムポート（S01）に関する SYSLOG が何も表示されない。



「モデムポートを使用する」のチェックが入っているか確認してください。

SYSLOG 表示例 2

“CHAP DOWN” と表示された。

```
S01: : [CONNECT REQ] Manual connect request received.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATDT0123456789  
S01:<--:  
+MCR: V34  
  
+MRR: 33600  
  
S01:<--:  
+ER: LAPM  
  
+DR: V44  
  
CONNECT 115200  
  
S01:PPP: Open start.  
S01:PPP: LCP UP.  
S01:PPP: CHAP DOWN.  
S01:PPP: LCP DOWN.  
S01:-->: +++  
S01:<--: +++  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATH  
S01:<--: OK
```

認証に失敗しています。

発信側、着信側で設定した認証情報（ユーザー名、パスワード）が合致しているか確認してください。
P24 の設定例を参照してください。

SYSLOG 表示例 3

“NO DIALTONE”と表示された。

```
S01:   : [CONNECT REQ] Manual connect request received.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT&FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT&FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATDT0123456789  
S01:<--: NO DIALTONE
```

ダイヤルトーン（発信音）が検出できていません。

以下の項目を確認してください。

- ・電話回線が LINE 端子に正しく接続されているか確認してください。
- ・構内交換機（PBX）を経由した電話回線をご利用の場合、追加 AT コマンド設定欄に「ATX3」（発信音を検出しない）を設定してください。

【追加 AT コマンド設定手順】

- ①設定メニューの「WAN ポートの設定」から「モデムポート 動作モード設定」を押してください。
- ②「内蔵モデム設定」の「追加 AT コマンド」に以下の AT コマンドを入力してください。

ATX3

- ③「内蔵モデム設定 適用」ボタンを押してください。
 - ④「設定の更新・再起動」を行ってください。
- ・構内交換機（PBX）を経由した電話回線をご利用の場合、外線発進時に「0 発信」が必要な場合があります。

そのばあい、アクセスポイント設定の電話番号の先頭に「0」を追加してください。

【電話番号が 0123456789 の場合の例】

0,0123456789

SYSLOG 表示例 4

“PPP:Open start”から進まない

```
S01:  : [CONNECT REQ] Manual connect request received.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATDT0123456789  
S01:<--:  
+MCR: V34  
  
+MRR: 33600  
  
S01:<--:  
+ER: LAPM  
  
+DR: V44  
  
CONNECT 115200  
  
S01:PPP: Open start.  
S01:  : Disconnect successfully, duration 00:00:55.(--:--:--)
```

発信側と着信側の認証設定が合致していない可能性があります。

発信側、着信側で設定した認証設定（認証の有無等）が合致しているか確認してください。

P24 の設定例を参照してください。

SYSLOG 表示例 5

“NO CARRIER”と表示された。

```
S01: : [CONNECT REQ] Manual connect request received.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK  
  
LOG_INFO      S01:-->: ATDT0123456789  
LOG_INFO      S01:<--: NO CARRIER
```

・発信側に設定したアクセスポイント（電話番号）に誤りがないか確認してください。

・ご利用の電話回線の回線品質が悪い可能性があります。

追加 AT コマンドを設定して、回線接続速度を下げても接続できるかお試しください。

【回線接続速度を下げる例】

①設定メニューの「WAN ポートの設定」から「モデムポート 動作モード設定」を押してください。

②「内蔵モデム設定」の「追加 AT コマンド」欄に以下の AT コマンドを入力してください。

例：AT+MS=v34,1,,28800,,28800

（変調方式を V34 に固定し、送信・受信の最高速度を 28800bps に制限）

内蔵モデム設定

回線種別の設定

☒ アナログ：プッシュ回線（トーン）
☐ アナログ：ダイヤル回線（パルス）
☐ アナログ専用線

オプション設定

スピーカー音量 ☐ ミュート ☐ 音量・小 ☐ 音量・中 ☐ 音量・大

追加ATコマンド

③「内蔵モデム設定 適用」ボタンを押してください。

④「設定更新・再起動」を行ってください。

P33 に詳しい設定方法が記載されているのでご確認ください。

※28800bps でも接続できない場合、14400bps、9600bps と速度を下げてお試しください。

LAN 型ダイヤルアップ IP 接続（着信側）

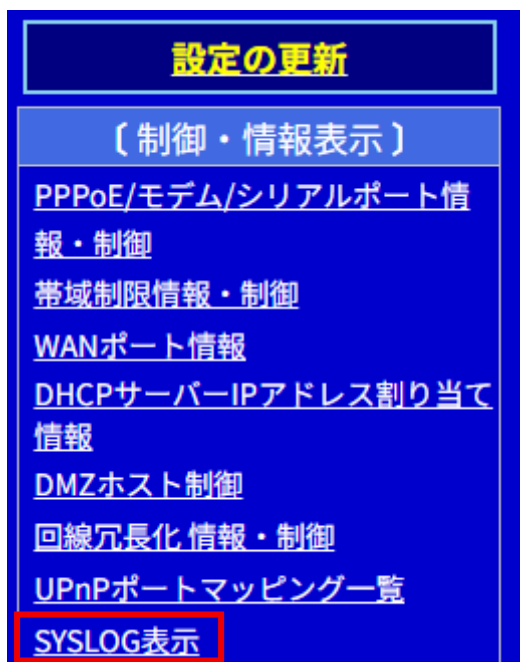
まず「モデムポート情報制御」から回線の手動接続を行い、状態が「接続状態」になるか確認してください。

- ・接続状態になっている場合

スタティックルーティング設定が正しく行われているか確認してください。

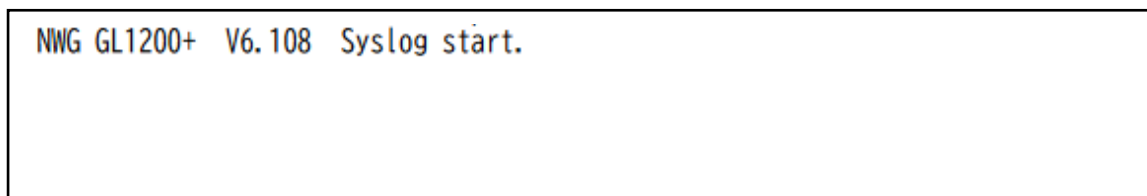
- ・接続状態にならない場合

設定メニューから「SYSLOG 表示」をクリックして、SYSLOG 表示の内容を確認してください。



SYSLOG 表示例 1

モデムポート（S01）に関する SYSLOG が何も表示されない。



「モデムポートを使用する」のチェックが入っているか確認してください。

SYSLOG 表示例 2

“CHAP DOWN” と表示された。

```
S01: : [CONNECT REQ] Manual connect request received.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT&FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT&FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATDT0123456789  
S01:<--:  
+MCR: V34  
  
+MRR: 33600  
  
S01:<--:  
+ER: LAPM  
  
+DR: V44  
  
CONNECT 115200  
  
S01:PPP: Open start.  
S01:PPP: LCP UP.  
S01:PPP: CHAP DOWN.  
S01:PPP: LCP DOWN.  
S01:-->: +++  
S01:<--: +++  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATH  
S01:<--: OK
```

認証に失敗しています。

発信側、着信側で設定した認証情報（ユーザー名、パスワード）が合致しているか確認してください。
P24 の設定例を参照してください。

SYSLOG 表示例 3

“PPP : Open start”から進まない。

```
NWG OPT V5.xxx Syslog start.
S01:-->: ATZ
S01:<--: OK

S01:-->: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1
S01:<--: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1
S01:<--: OK

S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;
S01:<--: OK

S01:<--: RING

S01:<--: RING

S01:-->: ATA
S01:<--:
+MCR: V34

+MRR: 33600

S01:<--:
+ER: LAPM

+DR: V44

CONNECT 115200

S01:PPP: Open start.
S01:-->: ATZ
S01:<--: OK
```

認証に失敗しています。

発信側、着信側で設定した認証設定が合致しているか確認してください。

P24 の設定例を参照してください。

SYSLOG 表示例 4

発信側で呼び出しても、着信側で“RING”が表示されない。

```
NWG OPT V5.xxx Syslog start.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK
```

RING（呼び出し）トーンが検出できていません。

以下の内容を確認してください。

- ・電話回線が LINE 端子に正しく接続されているか。
- ・発信側に設定したアクセスポイント（電話番号）に誤りがないか。
- ・構内交換機（PBX）を経由した電話回線の場合、呼び出し（RING）信号が NTT 一般公衆回線の仕様に準拠しているか。

内蔵されているアナログモデムは NTT の一般公衆回線向けに設計されています。

呼出信号の仕様が NTT 一般公衆回線の仕様と違う場合、呼び出し信号を検出できない可能性があります。

構内交換機の仕様については、構内交換機の設置業者等にお問い合わせください。

SYSLOG 表示例 5

“NO CARRIER”と表示された。

```
S01: : [CONNECT REQ] Manual connect request received.  
S01:-->: ATZ  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: AT+FE0V1S0=0&C1&D2&P2+MR=2;+DR=1;+ER=1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT+IFC=2,2;+ES=3,0,2;+DS=3;  
S01:<--: OK  
  
LOG_INFO    S01:-->: ATDT0123456789  
LOG_INFO    S01:<--: NO CARRIER
```

・ご利用の電話回線の回線品質が悪い可能性があります。

追加 AT コマンドを設定して、回線接続速度を下げても接続できるかお試しください。

【回線接続速度を下げる例】

- ①設定メニューの「WAN ポートの設定」から「モデムポート 動作モード設定」を押してください。
- ②「内蔵モデム設定」の「追加 AT コマンド」欄に以下の AT コマンドを入力してください。

例：AT+MS=v34,1,,28800,,28800

(変調方式を V34 に固定し、送信・受信の最高速度を 28800bps に制限)

内蔵モデム設定

回線種別の設定

☒ アナログ：プッシュ回線 (トーン)
☐ アナログ：ダイヤル回線 (パルス)
☐ アナログ専用線

オプション設定

スピーカー音量 ☐ ミュート ☐ 音量・小 ☐ 音量・中 ☐ 音量・大

追加ATコマンド

- ③「内蔵モデム設定 適用」ボタンをクリックしてください。

- ④設定更新・再起動を行ってください。

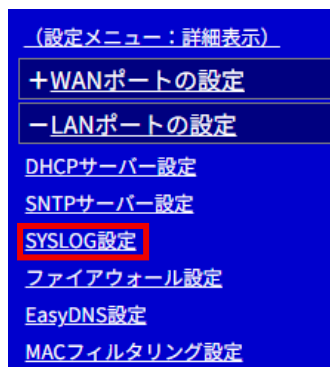
P33 に詳しい設定方法が記載されているのでご確認ください。

※28800bps でも接続できない場合、14400bps、9600bps と速度を下げてもお試しください。

RAS サーバーIP 接続

以下の手順で SYSLOG 表示設定を行い、SYSLOG の内容を確認してください。

- ・設定メニューの「LAN ポートの設定」から「SYSLOG 設定」を押してください。



- ・「LOG_WARNING」「LOG_NOTICE」「LOG_INFO」にチェックを入れて「設定」ボタンを押してください。

A screenshot of the 'SYSLOG機能を使用する' (Use SYSLOG Function) configuration window. It has a title bar and a main content area. At the top, there's a text input for 'ホストIPアドレス' and a label 'ファシリティコード : LOG_USER (固定)'. Below this is a section titled 'メッセージタイプ' (Message Type) containing two columns of checkboxes. The left column has LOG_EMERG, LOG_ALERT, LOG_CRIT, and LOG_ERR, all unchecked. The right column has LOG_WARNING, LOG_NOTICE, and LOG_INFO, all of which are checked and enclosed in a red rectangle. Below the checkboxes, there's a dropdown menu for '[SYSLOG表示] 画面での出力方式' (Output method on the SYSLOG display screen), currently set to '昇順にログを出力' (Output logs in ascending order). At the bottom, there are two buttons: '設定' (Set) and '元に戻す' (Reset), with '設定' highlighted by a red rectangle. There is also a block of explanatory text in Japanese about the settings and output methods.

- ・設定更新・再起動を行ってください。
- 以上で SYSLOG 設定は完了です。

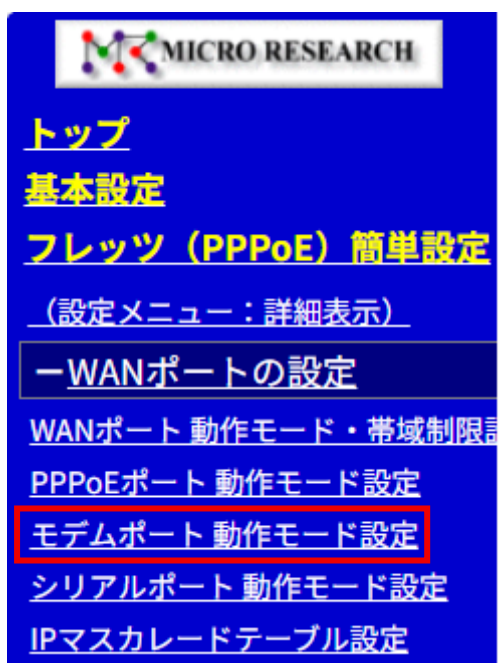
SYSLOG 表示例 1

モデムポート（S01）に関する SYSLOG が何も表示されない。

```
NWG GL1200+ V6.108 Syslog start.
```

「モデムポートを使用する」のチェックが入っているか確認してください。

モデムポートの設定は「WAN ポートの設定」内「モデムポート 動作モード設定」で行うことができます。



SYSLOG 表示例 2

“RAS Server has been disabled,IP Address failure”と表示された。

```
NWG OPT V5.xxx Syslog start.  
S01: :RAS Server has been disabled, IP Address failure.
```

RAS サーバーIP 接続設定で設定した「RAS サーバーIP アドレス」もしくは「RAS クライアント IP 接続」が使用できません。

「RAS サーバーIP アドレス」「RAS クライアント IP アドレス」が LAN 内で使用されていないか確認してください。（IP アドレスの重複が発生していないか確認してください）

SYSLOG 表示例 3

“RING”が表示されない。

```
NWG OPT V5.xxx Syslog start.  
S01: : RAS Server configuration, My IP=xxx.xxx.xxx.xxx Peer IP=yyy.yyy.yyy.yyy  
S01:-->: AT  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATE0V1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT  
S01:<--: OK
```

RING（呼び出し）トーンが検出できていません。

以下の内容を確認してください。

- **電話回線が正しく接続されているか確認してください。**
電話回線が「LINE」端子に正しく接続されているか確認してください。
- **RAS クライアント側に設定したアクセスポイントに誤りがないか確認してください。**
- **構内交換機（PBX）を経由した電話回線の場合、呼び出し(RING)信号が NTT 一般公衆回線の仕様に準拠しているか確認してください。**

内蔵されているアナログモデムは NTT の一般公衆回線向けに設計されています。

呼出信号の仕様が NTT 一般公衆回線の仕様と違う場合、呼び出し信号を検出できない可能性があります。構内交換機の仕様については、構内交換機の設置業者等にお問い合わせください。

SYSLOG 表示例 4

“CHAP DOWN”または“PAP DOWN”と表示された。

```
NWG OPT V5.xxx Syslog start.  
S01: : RAS Server configuration, My IP=xxx.xxx.xxx.xxx Peer IP=yyy.yyy.yyy.yyy  
S01:-->: AT  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATE0V1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT  
S01:<--: OK  
  
S01:<--: RING  
  
S01:<--: RING  
  
S01:-->: ATA  
  
S01:<--: CONNECT 33600/LAPM/V.42bis  
S01:PPP: Open start.  
S01:PPP: LCP UP.  
S01:PPP: CHAP DOWN.  
S01:PPP: LCP DOWN.  
S01:-->: +++  
S01:<--: +++  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATH0  
S01:<--: OK
```

認証に失敗しています。

RAS サーバー側と RAS クライアント側で設定した「ユーザー名」、「パスワード」（認証情報）が合致しているか確認してください。

SYSLOG 表示例 5

“NO CARRIER”と表示された。

```
NWG OPT V5.xxx Syslog start.  
S01: : RAS Server configuration, My IP=xxx.xxx.xxx.xxx Peer IP=yyy.yyy.yyy.yyy  
S01:-->: AT  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: ATE0V1  
S01:<--: OK  
  
S01:-->: AT  
S01:<--: OK  
  
S01:<--: RING  
  
S01:<--: RING  
  
S01:-->: ATA  
S01:<--: NO CARRIER
```

ご利用の電話回線の回線品質が悪い可能性があります。

追加 AT コマンドを設定して、回線接続速度を下げて接続できるかお試しください。

「モデムポート」内「内蔵モデム設定」「オプション設定」内「追加 AT コマンド」に AT コマンドを入力してください。

例：AT+MS=v34,1,,28800,,28800

(変調方式を V34 に固定し、送信・受信の最高速度を 28800bps に制限)

内蔵モデム設定

回線種別の設定

- ☒ アナログ：プッシュ回線（トーン）
- ☐ アナログ：ダイヤル回線（パルス）
- ☐ アナログ専用線

オプション設定

スピーカー音量 ☐ ミュート ☐ 音量・小 ☐ 音量・中 ☐ 音量・大

追加ATコマンド

P33 に詳しい設定方法が記載されているのでご確認ください。

※28800bps でも接続できない場合、14400bps、9600bps と速度を下げてお試しください。